

■本年度より編集委員を務めます近畿大学の池上です。夏の暑さも終わり次第に秋の装いが深まって行く中、この23巻2号が皆様のお手元に届いていると存じます。これを執筆している現在はまだまだ残暑厳しく、秋が待ち遠しく筆を走らせております。今号は例年通り、学術大会抄録集を兼ねております。

■本号では前号に引き続き、原田先生に総説を書いていただきました。前号がヒトの早寝早起き朝ごはんのご研究で、今号は温暖化に伴う昆虫の生活史の変動についてお寄せいただきました。温暖化に伴い地球規模で生物がどのように適応し、生活スタイルをどのように変化させているか、現在分かりつつあることやまだ未解明なことをご説明いただきました。温暖化に伴う高緯度帯への移動が温度適応や日長とどのように関係しているのか、大変興味がそそられる内容となっています。また、気鋭の山中先生には体内時計と睡眠覚醒調節との関係について、特にオレキシン神経を介した制御について詳細にご説明いただきました。睡眠と体内時計の制御という非常に困難な領域を開拓されてきた内容になっており、コンパクトに分かりやすく書かれた総説に詰められた仕事を想像すると、私も頑張らねばと鼓舞される思いです。

■若手リレーエッセイありがとうございます。今号は私から引き継ぎ、平野先生に前回の私のエッセイよりはるかにためになる留学に関する内容をお寄せいただきました（アメリカ編?）。その留学つながりで、武方さんにはオーストリアでの留学体験を留学体験記でご説明していただきました（ヨーロッパ編?）。突然の依頼にもご快諾いただきありがとうございます。偶然?にも主要な留学先の情報が一度

に会することになり、これも我々の引きの良さかもしれません。両方とも、現在ドクターコースやポストドク若手研究者にとっては、どんな方に聞くよりも参考になる内容で、是非読んでいただけたらと思います。また、過去に留学された先生や留学を考える学生を抱える先生方にも面白く読んでいただける内容かと思えます。学会参加記はEBRSでポスター賞を受賞された原口さんに書いていただきました。急な依頼にもかかわらず快くご快諾いただきありがとうございます。ありがとうございました。

■今号は少なめですが、そのぶん沼田大会長のもと編纂された抄録集が充実しておりますので、プログラムや要旨をお読みいただき、実りある大会になればと祈念しています。

■最後に、前回の重吉先生のような抱腹絶倒な編集後記など私には到底無理だったわけですが、私も個人的なことを少々書きますと、現在春に生まれた子供の子育てにはまっております。親バカですが、観察するのが楽しくもっぱら概日リズムが形成されていく様子を記録ノートで観察できることに無性に喜びを感じています。夜中はできるだけ暗くとか、親の食事のリズムを乱さないとか、どこまで意味があるのかわからないですが、試行錯誤することに研究者の血がそんなところでも働いているようです。もちろん前々編集委員長の富岡先生のご研究（Tomioaka K, and Tomioaka F. Journal of Interdisciplinary Cycle Research 1991;22:71-80.）のような大それたものではありませんが、無周期から長周期のフリーランニングになり明暗に同調するようになるこの成長記録というよりは概日リズム形成が記録された観察ノートは私にとって宝かもしれません。（池上）

時間生物学 Vol. 23, No. 2 (2017) 平成29年10月1日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://chronobiology.jp/>)

(事務局) 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所
吉村崇研究室内
TEL/FAX : 052-789-4069
Email : chronobiology.jp@gmail.com

(編集局) 〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2
近畿大学医学部解剖学
重吉康史研究室内
TEL : 072-368-1031
Email : shigey@med.kindai.ac.jp

(印刷所) 名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部